日本共産党の地域新聞　発行所：日本共産党夕張市委員会　夕張市千代田２番地の１　Tel/Fax　52-3097　2015年２月15日（日）1495号　（1）

民報 ゆうばり

平和とくらし守れ！安倍暴走政治ストップ！

新春のつどい開催「空知から共産党の道議を！」

空知のみなさんの声を道政にとどけたい

2月1日若菜のはまなす会館で、共産党夕張総合後援会と市委員会の共催による新春のつどいが開催されました。

衆院選の大躍進を共に祝い、みんなの力で「安心して暮らせる夕張に」するために、心一つにするつどいになるようにと企画されました。

市内から42名がつどいました。

第一部は木村けんじさん（道会議員空知選挙区予定候補）と、くまがい桂子さん（夕張市議）があいさつしました。

◆◆◆◆◆

木村けんじ氏のあいさつ

3度国政に挑戦

「私は、今日まで2年間にわたり3度国政に挑戦してきました。この間、生まれ故郷である空知の有権者から期待と願いが寄せられました。

農業など機関産業に従事して暮らしと経営に光が見える政治を、中小企業への支援を、若者が定住できる雇用の確立を、高齢者が安心して暮らせる年金・介護など社会保障の充実を、原発ゼロ・再生エネルギーの振興で空知・留萌の願いと声が直接届く政治の実現をなどです。この願いをいつも心に感じ、その実現の道に努力することが大事だと思ってきました。

総選挙で寄せられた安倍暴走政治に真正面から対決する日本共産党と私への大きな支持と共感は、選挙終了直後から今後に生かすことが求められると、強く思ってまいりました。

道議会議員選挙へ

それに応える道は、空知地域選挙区の道議会議員選挙への立候補です。空知から日本共産党の道議が誕生すると、道議会史上初めてとなります。

全力を尽くそうと決意しています。

総選挙での民意

比例の選挙で自民党は、33％の支持で3人に1人の支持。公明党を入れても過半数の支持に達しません。有権者全体では17％支持、6人に1人の支持でした。これが総選挙で示された民意です。

自民党の多数議席は選挙制度のマジックです。

政治の転換を有権者から託されて唯一躍進したのは日本共産党でした。これは民意です。沖縄知事に対する政府の対応にみられるように、安倍内閣は民意を無視する暴走政治をごり押し。これにストップをかけたい。

追随する道政

現道政は、福祉に冷たく道民の暮らしを守る独自の施策があまりにも少なすぎます。安倍暴走政治から道民を守る『防波堤』の役割を果たしていません。安倍暴走政治に追随する道政です。

現場35年間の経験

学校現場35年間の経験に照らして、現在の道教育行政をみたとき、教育現場への『管理支配強化』は教育条件悪化につながっていると思います。これは、道民の願いに反することです。教育行政のありかたが、問われています。

道民要求実現と・・

道議会は、事実上オール与党です。現有日本共産党1議席・真下道議は、孤軍奮闘で道民要求実現と道民の立場で、道政唯一人チェック機能を果たしています。

こうした道政と道議会を、道民にトッテプラスに前向きに変えなければなりません。

米価暴落の影響

空知では米価の暴落による影響は深刻です。ある農家の方は200万円の減収になる。またある組合長さんは飼料米にシフトしようとした矢先の暴落です。米価は国の政策にかかわることだが、道にも何らかの支援策を講じてもらえないだろうか、と訴えられました。

皆さんの声を道政に

何としても道議会に出て、空知のみなさんの声を道政につなげる役割を果たしたい。」と話しました。

◆◆◆◆◆

くまがい桂子氏のあいさつ

議会改革をかかげて

「4年前の東日本大震災直後の選挙で849票、5位で議会に送っていただきました。

その時の選挙はがきには『議会がポイント！　住民自治で夕張再生を』というキャッチフレーズで、議会改革、市民参加の委員会、住民自治と防災、『市民の声が動かす議会（2面へ）

★日本共産党　夕張市委員会へのご連絡・ご相談はお気軽にどうぞ～　Tel/Fax：0123-52-3097　e-mail：jcp.yubari@gmail.com

へ改革します』という公約通り、議会懇談会や夜間議会、議会基本条例が実現した。

また、防災マップづくりを訴え、３年がかりで実現。さらに、市議会傍聴席への階段に手すりがほしいという声を受け、これも実現させることができた。

市民参加の面では、医療・保健対策協議会をはじめ、さまざまな委員会に市民が参加するようになった。今後も皆さんの声をしっかりと議会に届け、実現させていきたい。」と述べました。

第二部はお楽しみ交流会として輪投げ大会、クイズ（頭の体操）、ビンゴなどを楽しみ、第三部はみんなで懐かしい歌で盛り上がり、「がんばろう！」で締めくくりました。

くずさんの夕張歴史散歩㉑

南助松とはどんな人（1）

夕張炭鉱においていよいよ南助松は活躍する訳ですが、ここに伝えられている南助松について紹介しておきましょう。

１８７３年（明治６年）石川県の鹿島郡端村というところで父「助太郎」の長男として生まれます。

妹が一人いて「ハツ」（後年、助松をたより夕張に来て明治40年に死亡）と二人仲良く、わがまま一杯に育てられたようです。

そんな中で若い頃は思うがままの放蕩ぶりを発揮し、特に酒も強く一升びんを倒してもそこから更に呑みつづけるという酒豪であったようです。

そんな彼も２２歳になって仕事を求め東京に出ます。そこで「軍夫募集」のビラを見て応募、台湾に渡ってしまいます。明治２７年のことです。台湾から帰って来てからは、知人をたよって北海道に渡ってきます。そこから弁護士の書生になったり幌泉の海草問屋に務めたり、或いは漁師や農業などを転々として、最後に夕張炭山に落ち着きます。

夕張炭山での助松

１８９６年（明治２９年）夕張に入った２４歳の南助松は、松尾飯場にいた友子の親分鈴木末吉のもとで第一斜坑の運搬夫として働きます。鈴木親分の信頼を一身に集めるほどに、現場でもまじめに働き坑夫の間でも信望が厚かったようです。

坑内で働きながら、坑夫の生活や打ちつづく災害、坑夫の気風などに疑問を抱き考えます。仲間と語り合いながら彼は、持ち前の行動力を発揮しますが、その弁舌爽やかさは衆目を集めるに十分でした。

しかも彼は、背も高く今でいえばかなりの「イケメン」だったようです。

（つづく）

夫婦円満

大門実紀史「国会かけある記」
日本共産党参議院議員
大門実紀史

先日、宮城県石巻市で開かれた日本共産党の新春のつどいに参加しました。石巻は畠山和也さんの出身地。つどいには畠山さんのご両親も来ておられました。司会者から「北海道ブロックから当選した畠山衆議院議員のご両親です！」と紹介があり、参加者から大きな拍手がおこりました。ふるさとはありがたいものだとおもいました。「いつ凱旋（パレード）に来るんだ」と私に聞く人がいたので、「街宣なら来るかも」と言っておきました。

畠山さんのご両親には何度かお会いしていますが、お父さんもお母さんも腰の低い誠実な方です。つどいではお父さんから初めて和也さんの子どものころの話を聞きました。「店をやっていたので、あまり面倒をみてやれませんでした。いつも一人でおとなしく本を読んでいる手のかからない子どもでした」とおっしゃいました。

私も小さい頃はいつも本を読んでいる子どもでしたが、末っ子でわがまま放題に育てられたせいか、生まれつき品性に問題があったのか、畠山さんのような素直な人間にはなれませんでした。

つどいが終わり外に出ると、畠山さんのご両親が車に乗って走り出すところでした。お二人いっしょに笑顔で手をふられました。喧嘩ばかりしてとうとう離婚してしまった私の両親とは大違い。いくつになっても仲がいい素敵なご夫婦です。そうか、夫婦円満であることが子どもの成長にとって一番大事なことなのだ、お二人を見送りながらそう思いました。